

穏やかな陽の光が、少しずつ近づく春の訪れを予感させます。
この時季だけの賑やかな展覧会、いつもの和やかな展覧会の両方を、ぜひお楽しみください。

展覧会のお知らせ

常設展示

「小川原脩記念美術館開館 15 周年記念 自伝風な展覧会—私の歩いてきた道」

『わが館自慢の一品』(道新夕刊)に掲載「森の入り口の白い樹」(1978 年)を展示中。ぜひご覧ください。

会期：4 月 20 日(月)まで

企画展示

「くっちゃんART 2015」

今年も多彩な作品が集まりました。油彩・水彩から版画、陶芸まで、個性豊かな展覧会です。

会期：3 月 22 日(日)まで

「マイコレクション展」

平成 26 年度の新収蔵品を中心に、当館の小川原脩コレクションをご紹介します。

会期：3 月 28 日(土)～4 月 20 日(月)

アート・イベントのお知らせ

土曜サロン

3 月 7 日(土)「印象派への旅(3) ルーアンからノルマンディーへ」

3 月 14 日(土)「印象派への旅(4) パリからアルルへ」

時間：14 時～15 時 講師：柴 勤(当館館長)

会場：当館映像ルーム 聴講無料

☆3 月 1 日(日)～9 日(月)は「3・9 @ RT WEEK (サンキューアートウィーク)」。しりべしミュージアムロード各館(木田金次郎美術館・西村計雄記念美術館・有島記念館)のチケット半券をご持参された方には団体料金でのご観覧と、ご来館の皆さまにオリジナルグッズプレゼントの特典をご用意しています！

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館

☎ 21-4141 FAX 21-4142

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/

俱知安風土館

☎ 22-6631 FAX 22-6632

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/kucchan-huudokan/

開館時間は 9 時～17 時

(入館は 16 時 30 分)

3 月の休館日

3, 10, 17, 23～27, 31 日

木田金次郎美術館 ☎ 0135-63-2221

開館 20 周年

木田金次郎 アトリエからの再発見

会期：開催中 3 月 29 日(日)まで

第 15 回仲間たち展

岩高美術部 OB・OG 作品展

会期：3 月 3 日(火)～8 日(日)

西村計雄記念美術館 ☎ 0135-72-2525

西村計雄・画業をたどる展覧会

「花～可憐で愛すべきもの～」展

会期：開催中 7 月 12 日(日)まで

おやかで楽しむ展覧会

「ときにはコレクターのように」

会期：開催中 7 月 12 日(日)まで

第 11 回「つたえる・つたわる箱絵展」

会期：開催中 3 月 15 日(日)まで

有島記念館 ☎ 0135-44-3245

「山下隆博写真展『吹雪の日／風の海』」

「新見亜矢子作品展」

「平成の『生れ出づる悩み』2014」

いずれも会期：3 月 21 日(土)～6 月 7 日(日)

※ 3 月 22 日(日) ギャラリートーク

講師：山下隆博さん、新見亜矢子さん

海と山と田園と -ミュージアムロード情報-

町長室から

昨年同様に降雪量が多く、湿った雪に見まわれ、除雪作業には大変ご苦労されたことと思いますが、3 月の声を聞き、少しずつ春の気配が感じられるようになりました。

町長就任して早 1 カ月が経ちますが、この間、就任の挨拶回りをはじめ、各町内会・団体新年交礼会や来訪者の多い日が続きました。

挨拶回りでは、各官公庁から今後発展が見込まれる俱知安町への期待が多く寄せられました。また高橋はるみ北海道知事とも面談ができ、北海道新幹線 5 年短縮の取組お礼や今後の駅周辺開発の推進、外国人観光客増加による雇用や住宅政策課題、冬季オリンピック開催誘致など意見交換することができました。

そうした中、現在新年度の予算編成作業を終え、町議会に提案する準備を進めております。依然として厳しい財政事情ではありますが、これからのまちづくり検討や住民サービスの維持・向上に努めたつもりです。ので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

先月は、冬の最大イベント「雪トピアフェスティバル」が開催されました。子どもから大人までたくさんの方にお集まりいただき、新イベントや好例の目玉イベントなど、大いに楽しんでいただけたのではないかと考えております。設営や運営にご尽力いただきました関係団体の皆さまには心よりお礼申し上げます。

また町長杯ジュニアクロスカントリーとアルペンスキー少年団のメモリアル大回転の大会もそれぞれ旭ヶ丘で行われ、選手が競技に一生懸命取り組んでおりました。俱知安町でウィンタースポーツが盛り上がりつつあることを、大変嬉しく思い、この中から将来、日本や世界で活躍することを願っています。

これから卒業シーズンを迎え、新生活の準備などでお出かけの機会が多くなると思います。天候や路面状況の変化には十分注意し、交通事故にはくれぐれも気をつけてお出かけください。

西江栄二

感動一点 の場

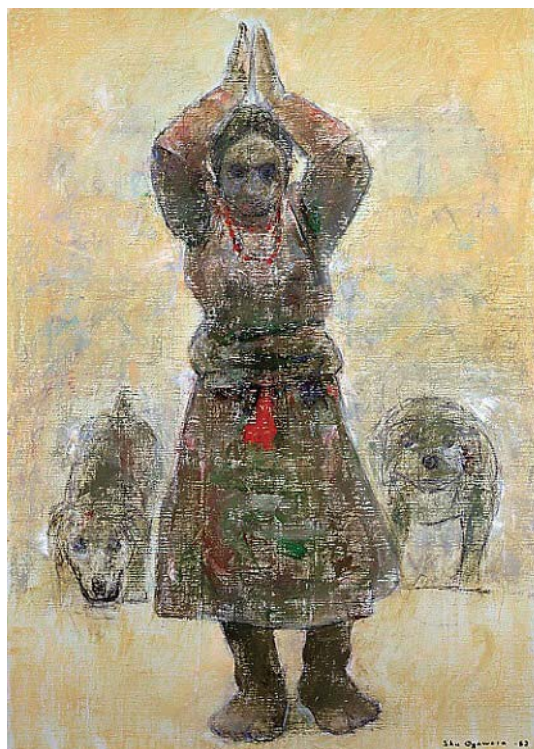
『巡礼』

1983年 小川原 脩 画

ひとりの女性と2匹の犬がいる。女性が両手を合わせて頭上へと持ち上げている姿は、チベット仏教における祈りの所作「五体投地礼」の一瞬を切り取ったものである。全身を伸ばしてから体を折りたたみ、前方の床へ寝そべり、また立ち上がることを繰り返す。1981年70歳の小川原脩は、初めてチベットの中心都市ラサを訪れた。「動」が大半を占めるこの激しい祈りの中で、動きを止めた「静」の瞬間が、画家の眼を捉えて離さなかったようだ。

小川原が描いた「五体投地礼」の作品には、何度か傍らに寄り添っている犬が登場する。それらの犬は人に連れられているのではなく、人びとと分け隔てなく自由に振る舞っている。本作品の2匹はというと、女性と一緒にあって礼拝を繰り返す仕草のようにも見えて愛らしい。

この作品は今年度の新収蔵品。1980年代のチベットシリーズの名品がまた一つ、美術館のコレクションに加わったことをお知らせしたい。



ふる探訪 さと

384回

—クツチャン原野—

「山々に囲まれ、東西に広く南北に狭く、西から東に向けて徐々に土地が高く、広く占める樹林地は農業に、丘陵林地は放牧に適し肥沃」と明治24年に書かれたクツチャン原野。明治29年の地形図（調査は明治28年）を見てみよう。山々の位置や尻別川の蛇行はほぼ正確に描かれているが、細かな部分は想像力で補ったようだ。羊蹄山の北側に尻別川に沿って低湿地が広がり、そこを抜ける1本の細道、そしていくつかの地名が記されている。人家は見あたらないのに、すでに倶知安村と記されている。



大正9年（調査は大正6年）の地形図（左図）は正確さを備え、多くのことを読み取ることができる。しっかりと区画整理がなされ、道路が通っていたことや大規模な農場がいくつかあったこと。すでに函館本線が通り、六号付近に市街地があったこと。そして農地の分布が今と変わらないことなど、今の倶知安に至る基礎が当時すでにそろっていたことが分かる。

クツチャン原野の開拓は明治25年に始まったとされる。クツチャンから倶知安となる大きな節目は、どうやら明治の後半にあったように見える。